教育・保育施設等における窒息事故発生時の対応フロー

令和6年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における食事中の誤嚥事故防止対策に関する調査研究」において、窒息事故発生時の対応フローについて、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等を基にとりまとめましたので、ご活用ください。

窒息が疑われるこどもを発見

意識を確認する、大声で人を呼ぶ

- **119番に連絡し、必要に応じて指示を仰ぐ**
  「救急です」「窒息です」「意識の有無」
- **AED依頼**
- **保護者へ連絡**

乳児　窒息の兆候

1歳未満の乳児の場合はチョークサインを示さず、手を上げて目を見開く動作をします。

幼児　窒息の兆候

のどをつかむ動作(チョークサイン)をします。そして、急に顔色が悪くなり、よだれを垂らして、苦しそうな顔をして声が出せなくなります。

意識がある

- 咳をしているのは、少しでも呼吸ができている状態である
- 咳により食塊を排出できそうであれば様子をみる
- 本人の咳込みにまかせ、背中を軽くたたいたり、さすったりする
- 目に見えない食塊を指で取ろうとすると、逆に押し込んでしまうので指を入れない

- 咳込む
- 苦しそうに泣く
- しゃべれる(苦しいよ等)
- 呼吸が苦しそう、呼吸困難
- 口や目の周りが青白くなっている

異物除去法の動画
出典:JapaneseRedCrossPR

状況を救急隊に伝え、救急隊の指示によっては、異物除去法を試す

意識がない

- 呼吸の確認(10秒以内に呼吸の有無を判断する)
  ⇒お腹や胸が動いているかを見る、もしくは手で触れて確認する

呼吸あり

安静にし、体を横に向けて様子をみる(観察を続ける)

呼吸がなくなったら

呼吸なし

異物除去法を行う

1歳未満

背部叩打法(はいぶこうだほう)と胸部突き上げ法を繰り返す

背部叩打法(はいぶこうだほう)(1歳未満)
片手にこどもをうつぶせに乗せ、手のひらで下あごを持ち、顔を支えて頭を低くし、背中の真ん中を平手で連続して5回叩く。

5回叩く

繰り返す

5回押す

胸部突き上げ法
片手にこどもを仰向けに乗せ、手のひらで後頭部を持ち、体をしっかり支える。
心肺蘇生と同じように、左右の乳頭を結んだ線の中央で少し足側を、指2本で5回押す。

1歳以上

背部叩打法(はいぶこうだほう)と腹部突き上げ法を繰り返す

背部叩打法(はいぶこうだほう)(1歳以上)
こどもの後ろから片手(もしくは太もも)を脇の下に入れ、胸と下あご部分を支えて、あごをそらせる。片手の付け根で両側の肩甲骨の間を強く迅速に5回叩く。

5回叩く

繰り返す

5回圧迫

腹部突き上げ法
こどもの後ろから脇の下へ両腕を回し、みぞおちの下あたりで片方の手を握り拳にして、もう片方の手で包み込み、腹部を手前上方へ5回圧迫する。(1歳以上のみ)

動画の出典:東京消防庁公式チャンネル

意識・呼吸がなくなったら

心肺蘇生法を行う(布団の上では行わない)

- 胸骨圧迫を強く速く　30回
- 人工呼吸(入らなくても2回まで)

繰り返す

口の中の食塊が見えたら、可能な場合は取り除く

AED到着 ガイダンスの指示に従う

- 心肺蘇生を継続しながら電極パッドをとりつける
- 電極パッドは衣類の上から貼り付けない
- 汗等でこどもの体がぬれた状態や薬剤(気管支拡張テープ、湿布など)等を貼ったままで行わない
- 呼吸が回復しても電極パッドは貼り付けたまま電源は切らない

- 呼吸が回復した場合、安静の体勢をとる
- 呼吸が回復しない場合、救急隊の到着までガイダンスの指示に従いながら胸骨圧迫を続ける(**心肺蘇生法を繰り返す**)

異物を除去できたら

- 意識を確認する
- 体を横向きにし口の中を確認する
- 安静にして経過観察をする

救急隊が到着したら指示に従う
腹部突き上げ法を実施した場合、内臓を痛めている可能性があるため、救急隊にその旨を伝える

MS&AD　MS&ADインターリスク総研